

年明けの検討課題(年度末の取りまとめに向けて)

年明け以降、「中間論点整理」で示した新スキームの更なるブラッシュアップを図るとともに、下記各論点について検討し、研究会としての取りまとめを目指す。

1. 新スキームの構築・移行スケジュール

- 社内やサプライヤへの周知・研修、現行データのコンバート、各社の社内システム改修等を勘案し、現行スキームの主要な関係者間で合意されたスケジュールに従って、新スキームへの移行を進める。
- IEC 62474に準拠した実用スキームを世界に先駆けて提案する観点から、データフォーマット(XMLスキーマ)及びデータ作成支援ツール(ソフトウェア)の開発は、来年度のなるべく早い時期に実施する必要。

2. 新スキームの運営組織

- 現在、情報伝達スキームを管理・運用する組織は、事実上JAMPのみとなっている。VT62474国内委員会や新たにエリアを設定する各業界団体についても、新たな運営体制の中で位置づけを明確化する必要。
- 新スキームの運営組織は、利用各社の機密情報を扱う組織として透明性を確保するためにも、企画機能と情報管理機能を別組織にする等の形で分離することが必要。

3. 新スキームの開発・運用コストの分担

- 新スキームのイニシャルコストとランニングコストを整理した上で、企業規模に応じた分担の考え方(一定規模以下の中小企業への配慮)、川上と川下の分担の考え方など、関係者で合意される透明な分担ルールを定める。ベネフィットとの兼ね合いで、自律的に回るスキームが必要。